

福 島 大 学

地域創造

第26巻 第1号 2014年9月

地域の窓

地域の希少植物を守るということ

～喜多方市「ひめさゆりの丘」～

..... 兼子 伸吾 (1)

〔 論 文 〕

デンマークのAspIT（アスペルガー症候群の若者を対象にした
IT教育のコース）について

— AspIT創始者へのインタビューを中心に —

..... 青木 真理・杉田 政夫・谷 雅泰 (3)

福島第一原子力発電所の事故後における福島県の物質フローの推計

..... 後藤 忍 (15)

〔 研究ノート 〕

韓国の「雇用許可制」と外国人労働者の現況

— 日本の外国人労働者受入れ政策に対する示唆点(1)—

..... 佐野 孝治 (33)

〔 資 料 〕

福島市および関東地方における2013年の降水安定同位体比の特徴

..... 藪崎 志穂・島野 安雄・安部 豊 (53)

● 編集後記 ●

『福島大学地域創造』第26巻第1号を刊行するに当たり、寄稿・投稿者の方々、査読者の方々、地域連携課（資料室）担当者など、多くの方々にご協力いただきました。皆様に深く感謝いたします。

本号から、個々の論文にも英語のタイトル等を付した（今までは裏表紙にしか記していなかった）。本誌に掲載された論文が、今や冊子体としてではなく、ほとんどが個々の論文のpdfとして読まれていると見込まれることを意識してである。

かつては、大学紀要は日本の大学の教育研究の成果の発表の場として重要であった。しかし、学会の細分化・増加により多くの学会誌が創設されるようになり、またそれらの中にはかなり数居の低いものも見られるようになった。さらに、地方大学でも大学教員の研究者としての側面が増大し、その研究者の評価が陰に陽に行われるようになった。そして、良くも悪くもその評価はどの雑誌に何報掲載されたかであった。理系の多くの分野では、紀要に論文を投稿するメリットは皆無となった。そのような分野では、学会誌等に掲載できないような論文が紀要に載ると見なされたからである。論文の検索システムがなく、大学紀要に書いても、学外の研究者が見てくれないことが多いこと、あるいは逆に、重要な論文が他大学の紀要に掲載されていると、見落とす可能性があり困ることも致命的であった。そのような流れで主だった大学の紀要の多くが廃刊、あるいは休刊になって久しい。

ところがここへ来て、少なくとも地方大学では流れが変わって来たように思う。地方大学の役割の中で地域貢献の比重が増してきた。CiNii（国立情報学研究所論文情報ナビゲータ）に紀要が登録されたため論文検索も、pdf化されたために論文内容の検索も、容易になったことも大きいと思う。研究者としての評価が上がらないことを気にしなければ、紀要は、比較的気軽に必要な情報を残す、あるいは必要な人に情報を届けることができるツールとなった。しかし、学会誌等との住み分けは必要であろう。地方大学紀要の存在意義として顕著なのは、学会誌等での掲載が困難な長編の論文や資料的色彩の強い論文、それから学会誌にはなじまない地域的な課題についての論文を掲載することができることであると思う。その意味で、福島大学が地域を対象に限定した紀要である『福島大学地域創造』誌を維持・発展させてきたのは賢明であったと思う。一方で、福島大学も教員も本誌の特質を理解し、もっと活用すべきではないかと思う。個人的には、毎号教員の1、2割ぐらいが投稿し、つまり50～100本ぐらいの論文が掲載され、大学としての地方貢献のアクティビティを誇示し、大学もそれを推奨、あるいは誘導するような策を行っても良いのではないかと思う。そのような方向に進むよう、編集としても努力したいと考えている。

（共生システム理工学類 黒沢 高秀）

執筆者紹介

兼子伸吾 (かねこ しんご)	福島大学共生システム理工学類准教授
青木真理 (あおき まり)	福島大学総合教育研究センター教授
杉田政夫 (すぎた まさお)	福島大学人間発達文化学類准教授
谷雅泰 (たに まさやす)	福島大学人間発達文化学類教授
後藤忍 (ごとうしのぶ)	福島大学共生システム理工学類准教授
佐野孝治 (さの こうじ)	福島大学経済経営学類教授
藪崎志穂 (やぶさき しほ)	福島大学共生システム理工学類特任助教
島野安雄 (しまの やすお)	文星芸術大学
安部豊 (あべ ゆたか)	サントリーグローバルイノベーションセンター

2014年9月30日 印刷

2014年9月30日 発行

『福島大学地域創造』第26巻 第1号 (『福島大学地域研究』改題)

編集代表者 小沢喜仁

発行所 国立大学法人 福島大学地域創造支援センター
(〒960-1296) 福島市金谷川1番地
電話 024-548-8358 (資料室)

印刷所 株式会社 プロセス印刷
(〒960-8003) 福島市森合字屋敷下6-1
電話 024-559-1991

JOURNAL OF CENTER FOR REGIONAL AFFAIRS FUKUSHIMA UNIVERSITY

Vol.26 No.1 September 2014

CONTENTS

The Gateway to the Community

Conservation of Local Rare Plant Species

..... *KANEKO Shingo* (1)

Articles

AspIT in Denmark : A Course of IT Education for Young People with Asperger Syndrome

..... *AOKI Mari, SUGITA Masao, TANI Masayasu* (3)

Estimation of Material Flow in Fukushima Prefecture after the Fukushima Daiichi
Nuclear Power Plant Accident

..... *GOTO Shinobu* (15)

Notes

The Present Conditions of the Korean "Employment Permission System" and Foreign Workers

..... *SANO Koji* (33)

Material

Characteristics of Stable Isotopes in Precipitation at Fukushima, Ogawa, Utsunomiya
and Kashiwa in 2013

..... *YABUSAKI Shiho, SHIMANO Yasuo, ABE Yutaka* (53)

Published by
Center for Regional Affairs Fukushima University
FUKUSHIMA, JAPAN